

花一会図書館便り

4・5月号（令和5年4月28日発行）

【TEL&FAX】

0136-57-6085

【MAIL】

hanaichie@voice.ocn.ne.jp

花一会ホームページ



Facebook



Instagram



Twitter

第10回

「郷土探索への道 学校編②上里小学校」 パン給食とたまご貯金

「郷土探索への道 学校編」前回に引き続き上里小学校で教員をされていた小林伸子さんのお話をご紹介します。

「学校の傍にあった建物を改築してできた公民館にはパン焼き窯やかまどの台所もついていました。

昭和28年か29年頃だったと思います。この公民館の台所を使って婦人会が給食を始めました。毎日婦人会の人たちが2～3人ずつ交代で朝早くからやって来て、パンを焼いて、パンと脱脂粉乳のミルクの給食を出してくれました。たまに当番の人が持ち寄った野菜でシチューを作ってくれたこともありました。」この上里地区婦人会によって独自に行われた上里小学校の学校給食は、蘭越町が学校給食を始める20年前のことでした。



昭和30年頃給食のパンを焼く婦人会員



昭和30年頃の上里小学校の給食風景

で学校に持ってくるんです。取っ手のついた四角いカゴに入れて割らずに上手に持ってきていました。学校まで遠い子だと3キロくらいあったのに、よく頑張ってやっていたと思います。1日に40個くらい集まったのかなあ。そのたまごを私がまとめて箱に入れておいて週に1回たまごを集めにくる業者に渡すんです。たまごは1個5円で売れました。月4～5千円になったのかなあ。当時私の初任給は5千6百円でした。婦人会は、そのお金で給食にも使う鍋とか食器を買ったようです。」

「パン給食がいつ頃まで続いていたのかは記憶が定かではありませんが、少なくとも5年以上は続いていたと思います。パン給食が終わった確かな理由はわかりませんが、婦人会の人たちが当番をするのが大変になったという話を後から聞いたことがあります。」

「パン給食が始まる前に1年間位だったかなあ、婦人会の事業で「たまご貯金」というのをやっていました。当時は、どこの家でも鶏を飼っていたので、毎朝子どもたちが自分の班の家を回って卵を一つずつ集めて

今月のおすすめ本 コーナー

『汝、星のごとく』

凧良ゆう 著 (講談社)

4月に発表された2023本屋大賞の大賞受賞作品。同賞2度目の受賞となる著者の本作は、瀬戸内海の島で育った少女と親の恋愛に振り回され島へ転校してきた少年の物語。人間の生きづらさ、

不自由の中でも自分なりの自由を生きていく主人公たち。心揺さぶる1冊。



『小さいエネルギーで暮らすコツ』

農山漁村文化協会 編 (農文協)

「小さなエネルギー」は太陽、水、薪や炭などを活かし自分たちで生み出す電気や熱、動力などのこと。外部に頼らず、「自分で生み出したエネルギーは愛

おいしい」と体験者談。手軽に始められるのもいい。写真も多く、説明も丁寧に書かれています。

『ものがわかるということ』

養老孟司 著 (祥伝社)

「世界をわかろうとする努力は大切である。でもわかってしまっただけではいけないのである。」(「まえがき」より) 解剖学者の著者による、ものの見方・考え方を解説したエッセイ。小難しい内容かと思いきや、語りかけるような文体が読みやす

養老孟司



『ものがわかるということ』

考えても答えは出ません。それでも考え続けます。自分を自由にしてくれる養老流もの見方、考え方



すい。「わかった気」でいたのかもしれない。

『BYWAY 後志通巻27号』

(BYWAY 後志発行委員会)

後志の地域情報誌『BYWAY 後志』27号(2023年3月発行)に、当便りで連載してきた「郷土探索 黒澤温泉編」が再編集されて掲載。更には町内の



栄養士・高橋千恵さんのインタビュー記事も!今号も盛り沢山の内容で、後志の奥深さを感じます。

庭に緑の彩りを



『美しく、長く楽しむ
はじめての花の寄せ植え』
井上まゆ美(ナツメ社)



『コニファー 楽しみ方と育て方』
柴田忠裕(淡交社)



『DIYでできる簡単!庭づくり』
(主婦と生活社)



『はじめての小さな庭づくり』
山本和美 監修(成美堂出版)



『暮らしの図鑑 庭の楽しみ』
(翔泳社)



『ひと目でわかる花木と果樹の剪定と育て方』
(ラテック社)